

薩摩街道歴史ふれあいウォーク

津奈木太郎峠 278m [下:主催者コースマップ]



葦北鉄砲隊演武



山川石畳登り口



当初の一等水準点



H22.11.28(日) 晴 12名参加 (天草山岳会)

1号車-K、Kh、T、Y、N

2号車-S、Sh、U、Ko、Na

3号車-Yo、Yh

[タイム]5:00 天草市役所 9+2名出発, 6:30 不知火支所 1名合流, 7:45 佐敷みかげ公園駐車場, 8:00 佐敷城址受付 1000円, 8:20 開会式, 8:30 スタート-湯治坂-湯浦-山川観音堂-山川石畳-水準点-林道, 11:30 津奈木太郎峠-林道-水呑場-石橋, 12:10 千代塚, 12:40 重磐岩眼鏡橋, 12:45 津奈木ゴール(弁当), 13:57 津奈木駅, 14:11 佐敷駅, 14:30 御立岬温泉(入浴券 250円), 16:30 不知火支所, 18:30 本渡解散, 参加費 260km1500円 (資料代, 高速代, 写真代, 車代還元 3500円)

本渡から11名が車3台で出発する。不知火支所で1名合流し、広域農道を通り八代南ICから無料中の南九州自動車道を通る。佐敷ICを降り、みかげ公園駐車場に車を置き佐敷城址まで登り受付を済ませる。

第3回薩摩街道歴史ふれあいウォーク5コースの内1,2コースの開会式が始まり主催者(北薩/葦北地域振興局)挨拶の後、葦北鉄砲隊の号砲でスタートする。私たち2コースは佐敷の街中を一周し高速道路の下を抜けて湯治坂を通り肥薩オレンジ鉄道と並行した後湯浦川を渡る。山川観音堂で御茶の接待を受けた。

山川集落の奥から歴史の道が始まり山川石畳と呼ばれる山道に入る。石畳といっても土や落ち葉で隠されていてどこが石畳やはっきり分からなかった。付近は高速道路の工事区域にあるらしくテープが張ってある。ぜひ歴史の道を保存して欲しいものだ。

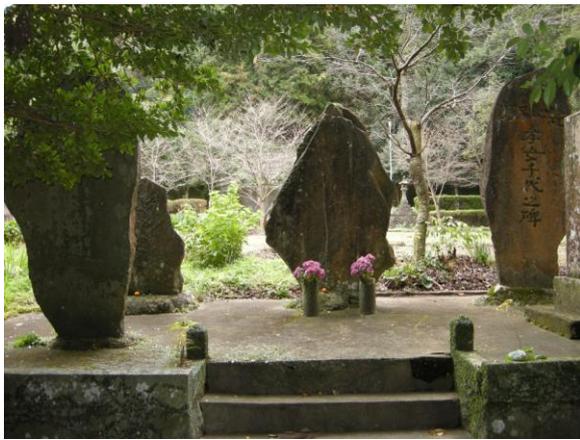
道は人や牛馬の往来、流水、木材の出し道などのため谷状になり広葉樹や杉檜の林に囲まれている。道が平坦になった所に水準点の標石が残されていた。「一等」の文字は削られていたがかつての一等水準点と見受けられる。やがて林道に出てしばらく歩き再び歴史の道を登る。

急坂を登りつめて津奈木太郎峠に到着し御

津奈木太郎峠(278m)



千代塚



津奈木太郎峠遠望



重磐岩眼鏡橋



茶の接待があった。南に見える三角錐の山は出水矢筈岳かと尋ねたら鬼岳(おんだけ)とのことだった。案内人の方の説明を聞き集合写真を撮る。少し下ると林道に出て再び左側へ歴史の道を下る。すると又林道へ出て左側に潤れた谷川がある。「水呑場」と呼ばれる湧水がありお地蔵さんが祀られる。石橋(桁橋)二橋が谷川に架かり歴史の道は谷沿いに続いているようだ。ぜひこの道を歩きたかった。

林道は旧国道と合流し左折してすぐに右へ杉林の中を下る。国道3号の車の音が近くなり千代塚に出た。「千代は幼くして父母を亡くし祖父母に育てられた。幼時から祖父母に考養を尽くして、貞享二年(1685年)藩主から褒賞を受けた。天明六年(1786年)と天保十五年(1844年)に墓碑が建てられ、明治以降も徳富蘇峰による碑などが加えられて石碑が7基建っている。(参考文献①略記)」背後は広場で戦役碑などが建てられている。

国道3号の下を抜けた所に高速道路の新津奈木トンネルの工事現場がある(左写真中央)。この付近には旧国道津奈木隧道、国道3号津奈木トンネル、旧国鉄津奈木トンネルそして新幹線津奈木トンネルと四本のトンネルが通り昔も今も陸の要衝であることに変わりはない。左の写真で山の尾根の鞍部が津奈木太郎峠で佐敷太郎峠、赤松太郎峠の三つの峠を合わせて「三太郎峠」と呼ばれている。それでは「太郎峠」にはどのような名称由来があるのだろうか私なりに解明を進めている。

重磐岩眼鏡橋は肥後の名工岩永三五郎の弟三平の手によるもので嘉永二年(1849年)に竣工した。径間17mのアーチ石橋である。この橋を渡ると物産館の広場でゴールになる。弁当を食べて商品券で買い物をする。津奈木駅から佐敷駅まで電車に乗りシャトルバスでみかげ公園駐車場まで戻り帰途に着く。半額入浴券で御立岬温泉に入り本渡へ帰った。

[参考文献] ①主催者コースマップ ②山口祐造 九州の石橋をたずねて上中下 (N)